



NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

新聞

2022年(令和4年)

1月1日 土曜日
月4回金曜日発行

全国農業

首都圏



ビジネスチャンスにトライ!!

コロナ禍が続いた昨年。その中でも独自の視点と涙ぐましい努力で、新たなビジネスチャンスをつくってきた農業者がいる。今回は、社名変更で新たなスタートを切ったり、キッチンカーや新しい栽培方法に取り組むなど、各都県それぞれの「トライ」を紹介します。

コロナ禍の中独自の視点 不断の努力で

【山梨】全国でも珍しいカタカナ市町村名の南アルプス市。この地で果樹栽培を手がける農業法人(有)M.A.C.Orchard(飯野公一代表取締役)は昨年4月に従来からの社名を変更し、地域農業の担い手としての取り組みをさらに強化している。

南アルプス市 M. A. C. Orchard



農業体験の実施、新規就農者の研修に力を入れるM.A.C.Orchard(後列右から2人目が飯野代表)

業員全員で意見を出し合い決定した。

扱っている果樹はサクランボ、スモモ、桃、ブドウ、柿で、5月下旬のサクランボから12月中旬のアンボ柿の出荷まで、長期にわたって生産・販売している。

社名変更に伴い飯野さ

社名変更で心機一転

新規就農者研修にも力

新社名は、南アルプス市の2人の息子さんも就農し、桃、ブドウの責任者になるなど従業員体制も整い、新たにハウスでシャインマスカット栽培を合わせたもので、従

同法人では農業体験の実施、新規就農者の研修にも力を入れ、すでに活躍している自営就農者もいる。このほか、山梨県立農業大学の研修生の受け入れやネット販売、宅配なども行っている。

また、従業員同士で週に1度ミーティングを実施し、業務内容や時にはプライベートの相談まで幅広くコミュニケーションを取り、労働に対する意識の向上や人材の定着を図っている。

今後は冬から春先にかけての新たな栽培品目の選定や繁忙期の従業員の休日確保などの課題に対してもチャレンジしていくという。飯野さんは「可能なかぎり地域の農地を受け入れながら、おいしいものを全国の消費者に届けていきたい」と力強く語っている。